

新年早々フランスで新聞社がテロに攻撃され十二人が死亡しました。又、イスラム国で拉致された日本人二人が殺されたとの現地報告に真実なのかどうか心配です。我々は一寸先の我が身の事を知る由もありません。何時善光寺如来様がお迎えに来て下さっても良い生活をしていたいものです。一日が一生、一日刻みの生活こそ大事なことです。この世に沢山の思いが残るのも当然のことです。人生はかもしれないで始まり、かもしれないで終わるでしょう。今月は当山善入院のご本尊様 一光三尊善光寺如来様の一年に一度の御縁日がきます。七章法要」です。旧暦で行いますから今年は 二月の二十四日」になります。我々は目に映る現象ばかりに気を取られがちですが目に見えにくい己が姿の内こそ気を配るべきでしょう。首輪をはめられて可愛がられる犬よりも人間の方が合わせではなからうか。悩める人間も苦勞なれば、その問題を解決させる人間も苦勞なのです。空海大師様は 行き悩む浮世の人を渡さずば 一夜を十夜の橋とおもはむ」とお詠みになられました。はたして今の自分が行き悩む人の橋渡しができるであろうかと思ひ悩むのも苦である。人間利口ぶってもそれが負担となり、いつもビクビク気が晴れない日が続く事になります。見栄をハルとハリ続ける必要に迫られ苦が始まるのである。知らぬは知らぬと言う事こそ勇氣ある行動であり、心安らかに暮らすもとでしよう。自分の思い通りに事が運ばなくなり苦悩が続くと気持ちが悪くなり分散しようとして精神分裂を起こしてしまうのではなからうか。又、人を殺してみたかったと言う学生があらわれました。智慧とは何ぞや。見識とは何ぞや。悩み深し。

釈尊は東に向かって拝む時は親の恩を思うて礼拝せよ、西に向かって拝む時は我が子の恩を思うて礼拝せよと仰せになりました。三世代の恩であると思ひます。佛の教えは基本的に対機の説法です。医者が患者に対して病に適した薬を投与するが如く、人夫々の悩みに応じた教えを説いているのが経論です。花も蘭のように永く咲くものもあれば、一日にして枯れる花もあります。人間とて同じです。長生きする者もいればこの世に生をみることもなく散ってしまう命もあります。今が一番大切と言うこととなります。例え病にて余命いくばくも無しと言われていようとも、過去に親から命を授かり、そして今の現在があり、未来の子孫に血統を継承していく流れを司れば任務終了なのです。又、逆縁の方は生まれ変わって任務を遂行する事に成りましょう。これを輪廻転生といひます。そして最後は親を阿弥陀仏とする西方の極樂へ往くことになるのです。阿弥陀仏のもとに往くには多少なりとも苦界を渡らなくては行けません。生みの苦しみを母親に味あわせた自分です。阿弥陀様の極樂に行くにも自身に苦しみがあつて当然のことです。中には安産と言うこともあります。我々は 同席対面五百生」といひまして、今ある縁も五百年前に決まっているということ。法然上人様は 二枚起請文」の中で極樂へ行きたい者は 南無阿弥陀仏と申して疑いなく往生するぞと思ひとりて申すべし」と言われました。我々は現象に翻弄され続け疑心暗鬼になっております。その我々に極樂と言う行つたことも見たことも無い世界に誰でも行ける、法然を信じて疑うなど、疑い無き我等無我夢中、遮二無二進んで念仏申し、極樂へ往く姿が目には浮かびます。

二月一日

善入院油掛地藏尊